

2022 年度 人文学類卒業生アンケート結果について

人文学類 FD 委員会

人文学類 FD 委員会では、2022 年度に実施された卒業生アンケートの結果を公開いたしますとともに、問題点や課題を明らかにすることで、人文学類における今後の教育改善に向けて役立てていただきたいと思います。

アンケート実施時期： 2023 年 3月10日～26日

対象学生数： 人文学類 2022 年度卒業生 134人

回答者数： 50 名（回答率 37%）

2022 年度の人文学類卒業生アンケートの回収状況は、学類の学位記伝達式を実施した際に呼びかけを行い、また学位記伝達式前後の期間にオンラインで回答可能にして回答を呼びかけたことで、ある程度の回収率を維持できたが、前年度の回答率（50%）には届かなかった。コース・分野で回答状況に違いがあるため、前年度同様に、学類単位での総計データに基づいて分析をおこなうこととする。

表 2022 年度卒業生アンケート結果

| | 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. あまりそう思わない | 4. そう思わない | 5. どちらとも言えない | 高評価率 (1と2の合計) |
|---|---------|-----------|--------------|-----------|--------------|------------------|
| Q1 幅広い教養や社会的常識を身につけることができた。 | 56.0 | 40.0 | 4.0 | 0.0 | 0.0 | 96.0 |
| Q2 今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につけることができた。 | 32.0 | 60.0 | 6.0 | 0.0 | 2.0 | 92.0 |
| Q3 自ら課題を発見し解決する能力を身につけることができた。 | 42.0 | 56.0 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 98.0 |
| Q4 様々な状況に対応するコミュニケーション能力を磨くことができた。 | 42.0 | 48.0 | 6.0 | 4.0 | 0.0 | 90.0 |
| Q5 プレゼンテーションの能力を磨くことができた。 | 34.0 | 48.0 | 14.0 | 2.0 | 0.0 | 82.0 |
| Q6 異文化に関する理解力を高め、異なる視点から諸事象を把握する能力を身につけることができた。 | 52.0 | 34.0 | 14.0 | 0.0 | 0.0 | 86.0 |
| Q7 人間や社会のあり方を論理的に理解する能力を身につけることができた。 | 44.0 | 48.0 | 8.0 | 0.0 | 0.0 | 92.0 |
| Q8 人間や社会の諸問題を、歴史的背景をふまえて把握する能力を身につけることができた。 | 44.0 | 48.0 | 6.0 | 2.0 | 0.0 | 92.0 |
| Q9 文献や文学作品の読解力を高め、ことばに対する感性を養うことができた。 | 56.0 | 34.0 | 6.0 | 4.0 | 0.0 | 90.0 |
| Q10 全体として、金沢大学人文学類で学んだことに満足している。 | 72.0 | 28.0 | 0.0 | 0.0 | - | 100.0 |

2021 年度との比較を行うと、全般的に同様の傾向がみられ、高評価を維持していると言える。2021 年度と比較して回答者数が減少しているため、安易に断定することはできないが、全般的な高評価はおおよそ維持されていると言えるだろう。

「Q10 全体として、金沢大学人文学類で学んだことに満足している」では、2019 年度 95.7%、2020 年度 90.2%、ともに 9 割を超え、2021 年度に 100% となり、今年度もそれを維持している。一番高い「そう思う」でも 72.0% となっており、2021 年度を僅差で上回った。コロナ禍で学生も教員も苦勞をしてきたが、このように継続的に高い評価を得たことは喜ばしいことである。

高評価が 5 ポイント以上増加した項目は、Q5 プレゼンテーション能力 (15.3 ポイント上昇)、Q2 専門的知識。技術の基礎習得 (同 9.5 ポイント)、Q8 諸問題の歴史的把握 (同 6.3 ポイント)、Q3 課題の発見・解決能力 (同 5.9 ポイント) と前年度より 1 項目増えている。とくに Q5 のプレゼンテーション能力については、これまで人文学類において低めの評価がつくことの多かった項目だが、今年度は評価が著しくアップしたのは注目に値する。コロナ禍でのオンライン教育など様々な試行錯誤がプラスに作用したのかなど、今後の推移を見守る必要があるだろう。またポイント総数は前年度とさほど変化がなかった項目においても、Q4 コミュニケーション能力は「1.そう思う」が前年度よりも 8.7 ポイントもアップしているのは注目される

。

逆に、高評価が 5 ポイント以上減少した項目が一つあり、Q6 異文化理解が 7.7 ポイント減少した。「1.そう思う」には変化がなかったが、「2.ややそう思う」が 41.3 ポイントから 34.0 ポイントに減少し、「3.あまりそう思わない」も、14.0% とやや高めの数値を示している。コロナ禍の期間中、海外留学が実質的に不可能であり、海外からの留学生との交流が低調だったことも影響したと考えられる。この点は次年度、どの程度、改善されるか注視されるところである。

また、2020 年度、2021 年度と続けて問題として指摘された、「Q2 今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につけることができた」では、上述したように 2022 年度では、大きくプラス評価にアップしている。この点について、かねて人文学類で学ぶ学問内容や知識は、職業や社会活動にすぐに役立つものではないと指摘されることも多かったが、近年の学類の教育活動の積極的な取り組みが、学生の側からも、「これから」や「将来」の諸活動、人生に有用な知識や技芸を学んでいるという認識を獲得しつつあることを示すものと言えそうである。